

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 さくら)

事業所番号	0671600260		
法人名	社会福祉法人睦会		
事業所名	ラ・フォーレ天童グループホーム		
所在地	山形県天童市大字道満176-1		
自己評価作成日	平成27年7月1日	開設年月日	平成13年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

隣接する神社での参拝や山々が一望できる河川敷は毎日の散歩コースにもなっており、自然豊かな環境に恵まれている。温泉資源を利用し、温泉入浴を楽しみ暖房にも温泉の熱を利用し快適に過ごさせている。季節ごとに行事を行っており、漬物作りや笹巻き作り等昔ながらの行事から昔を思い出して頂いたり、地域行事の参加や外出によって社会との繋がりを感じて頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

設立以来15年目の本事業所は、木造の温かみのある建物と豊かな自然と温泉に恵まれ、ゆったりとした時間を過ごせる環境になっている。管理者はグループホームの理念を実践に繋げるには何が大切かを職員と話し合い、職員自らの気づきを促しながら、委員会活動を中心に役割を分担し、職員の自発的努力と体制づくりを促している。管理者と職員は、常にケアの向上を目指し新たな取組みに挑戦しており、そのために諸記録等を分析し、そのデータを基にして課題解決に取り組んできた。これらエビデンスに基づいた先駆的な取り組みは、利用者・家族や職員からの理解を得てケアの向上に結び付いている。これまでの経験を活かし、更なる発展を見据え、利用者や職員と一緒に空間の中で、穏やかな雰囲気と笑顔が見られる事業所である。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成27年8月5日	評価結果決定日	平成27年8月25日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域から必要とされるグループホーム」を理念に掲げ、地域と関わりを持てる様に地域の行事に積極的に参加している。事務所に理念を掲示し、職員に意識付けている。	事務所に理念を掲示し、月1回の全体会議において、管理者は理念を掘り下げ、具体的に、何が大切かを職員と話し合いをしている。職員一人ひとりが、理念を理解し、実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への参加や近隣のさくらんぼ畑の方よりお誘い頂き、さくらんぼ狩りを楽しませて頂いている。又、避難訓練に地域の協力のもと、訓練に参加して頂いている。	福祉推進員の訪問や中学生のボランティアを受け入れたり、またマラソン大会の応援や文化祭等地域行事に参加、避難訓練に地域の協力を得たりして、交流が図られている。事業所の活動や役割を発信しながら、地域に受け入れられるよう取り組んでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	二カ月に一回運営推進会議を開き、地域の方にも参加して頂き、家族交流会においても勉強会を開き認知症への理解や支援などを知って頂いている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者のご家族・市役所・民生員の方々に参加して頂いている。利用者の支援・サービス内容についての評価の報告を行い、話し合っている。そこで出た意見を今後のサービス向上に役立てている。又、会議録を回覧し職員内での共有を図っている。	利用者の家族代表・市・包括センター・老人クラブ・民生委員・福祉推進員の方々がメンバーになり、昼食試食を挟んで2カ月に一回開催している。会議では、事業所からの報告と共に委員からは率直な意見が出され、出された意見は内容により各委員会等で検討し、サービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	二カ月に一度の介護相談委員の来訪や運営推進会議へ市の担当者へ出席して頂き、事業所の実情や取組み等を伝えている。	運営推進会議に市の職員が参加した際に、事業所の実情やケアサービスの取組みを伝えている。また、2カ月に1回介護相談員の来訪があり、市からは毎月介護相談員活動報告書が届けられ、情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>拘束が必要な時は職員間で話し合い、家族と相談し対応している。日々、拘束をせず生活が送れるように話し合いを持ったり、研修会に参加し対応に努めている。</p>	<p>職員は身体拘束禁止となる具体的な行為を理解し、利用者一人ひとりの安全確保や抑圧感のない暮らしを支援している。転倒防止のためベットの位置の工夫や、布団や鈴を利用し拘束をしない工夫に取り組んでいる。日々の暮らしの中で気づかないうちに言葉を遮ったり、気持ちを抑えつけていないか話し合っている。転倒などが予測される場合は家族等には予測されるリスクを率直に伝え、対応について話し合っている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>研修に参加し、研修内容の回覧・全体会議で研修報告を行っている。虐待の種類やどこからが虐待になるのかを学びケアを見つめ直している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修への参加、施設内研修を行い職員同士で話し合い理解を深めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居時説明や相談はもちろんの事、利用者や家族の不安・疑問点についてもその都度説明し対応を行っている。退居後も相談を受け、アドバイスをを行っている。</p>		
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱の設置や来訪時にどんな事でも記入していただける様に玄関にノートを置いている。家族を対象にアンケートも行っており、出た意見や要望について話し合いを行い改善に努めている。</p>	<p>家族を対象にアンケートを実施し、意見や要望を聴いている。年2回は家族交流会を開催し、また面会時等日常的な会話の機会に、なんでも言ってもらえるような雰囲気を作り、出された意見や要望は、話し合いを行いながら運営に反映させている。家族の要望により、自由に書くことのできるノートを玄関に置いている。</p>	
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に一度、管理者も同席し全体会議を行っている。そこで出た職員の意見や提案を反映し実行している。職員一人一人の意見や思いを常に聞き入れられ、互いにアドバイスを互に行える環境が出来ている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、勤務時間・勤務体制等を変更している。給与・手当においても勤務状況を考慮したものとなっている。受講したい研修の希望も取り入れており、やりがいのある職場環境である。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内での研修を行ったり、外部より講師を招いて研修も行っている。又、職員の希望の研修を聞き積極的に参加している。	職員一人ひとりの希望と力量を把握しながら、なるべく多くの職員が外部研修を受講できるようにしている。それらの研修内容は毎月の全体会議で報告し全職員が共有している。また内部研修を計画的に行い、職員が講師を務めるなど経験に応じた学びの機会が確保されている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	市内のグループホームと年に2回合同研修会を行っており、事例を通して意見交換、交流をしている。又交換実習に参加し、情報交換等とお互いの事業所の良い所を取り入れ、見直すきっかけになっている。	年2回、市内のグループホームと合同研修会を行い、事例検討を通して、一緒に学び、交流を深めている。また、地域、県、全国組織のネットワークに加入し、積極的に研修や交換実習に参加し、これらの活動を通してサービスの質の向上を図っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを作成する上で、本人や家族の要望を確認し反映させ、困ったことがないか耳を傾けている。安心して暮らせるよう配慮し、信頼関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始に際し、家族や本人が不安に感じている事、要望等をしっかり聞き、連絡を密にする事で、信頼関係を築けるよう努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、環境を考慮し、ほんにん・かぞく・ケアマネージャーと密に連絡を取り、必要なサービスが提供できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体を忘れず、本人の出来る所は行えるような環境を整え、毎日常事等を一緒にやり、共同生活の関係を築けるよう努力している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプランでは本人の意向だけではなく、家族の意向も聞き、取り入れている。面会や電話での状態報告を行い、意見を聞く環境を作っている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染の方との面会を行っている。家族の面会を促したり、家族交流会に参加いただく事で、一緒に過ごす時間を設けている。また、昔行った場所への外出も行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が紹介し、利用者同士気持ちよく生活できる場であるように、性格的波長も考え、支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居しても、本人や家族の相談にいつでも応えられるように努めている。又入院による一時退居時も家族と連絡を取りサポートを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人がどんな生活を送りたいのか、楽しいと感じる事は何かを把握できるよう努めている。思いを伝えられない方は表情を見て思いを汲み取る様な働きかけを行っている。	センター方式シートやマンダラートシートで担当者が中心になり、思い・希望・意向の把握に努めている。困難な場合は、日々の行動や表情から汲み取り、利用者の視点に立って話し合っている。目標達成計画に掲げた「ちょっと待って」の言葉を使わないケアに取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の事前面談での聞き取りや、自宅、病院、施設等に行き、本人、家族、ケアマネージャー、関係者より情報を得るようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン作成時、センター方式やマンダラートを活用して一人一人の事を把握出来るよう努力している。ユニットノートを活用し、現状や変化を伝え、職員間で情報の共有を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一度、ケアプランの見直しを行う際、センター方式やマンダラートを利用してアセスメントを行い、前回の評価も取り入れ、ケアプランに反映させている。ユニット会議や全体会議で職員同士話し合いを行い、ケアプランを作成している。	前回のサービス評価に基づいて3か月に1度、モニタリングを行い介護計画の見直しを行っている。利用者や家族には日頃の関わりの中で、思いや意見を聴き、介護計画に反映させている。ユニット会議や全体会議で職員全員により話し合いを行い現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にケアプランの内容に沿った記録を行い、特記があれば介護録に記入している。情報を共有する事で、どうすれば良いか見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の公園に散歩に出掛け、地域の方々や子供達との会話を通じ、地域の中での安全な生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	身体の状態、生活の様子を情報提供書を作成し、家族にも内容を説明した上で、主治医に書面にて報告している。状態変化があれば報告し指示を仰いでいる。	受診や通院は基本的には家族同行の対応となっている。受診時には日ごろの様子を記載した情報提供書を作成し、家族にも内容を説明した上で、主治医に書面にて報告している。受診結果については、情報提供書の所定の記載欄に主治医が記載する場合もあるが、ない場合は職員が記入し、情報の共有を図っている。前回の目標達成計画は具体的に組み立てられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中であらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師のいない施設の為、近隣施設の訪問看護ステーションと契約し連携を取り、報告・指示を仰いだり、回診、処方依頼時以外でも常に医師・看護師への報告を行い、指示による対応を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時は、サマリーを通して情報交換している。家族からの情報と定期的に面会時、状態変化と現状の把握をしている。 退院時は、面談に行き退院後の生活がスムーズにできるように努めている。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>利用者の状態や状況を見て本人、家族の意向を聞き、かかりつけ医、訪問看護師と相談・話し合い、支援方針を決めている。 現在は、看取りを行っていない。</p>	<p>訪問看護ステーションと連携しており、利用者の状態や状況に併せ、家族や関係者と話し合い意向を確認しながら支援方針を決めている。関連する医療法人が老健施設や病院を有しており、重度化した場合でもスムーズに移行可能なことから、利用者や家族が安心しており随時確認しながら対応している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>マニュアルを作成し、緊急時に対応出来るようにしている。 まだまだ、実践力に繋がっていない所もある為、今後もっと、勉強会や訓練を重ねる必要がある。</p>		
35	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>災害時に職員全員が動ける様に、避難訓練を行っている。年に一回地域の方々の参加で、協力体制を築いている。</p>	<p>火災・水害・地震などあらゆる災害を想定した避難訓練並びに離設者捜索訓練を、昼夜を通じて様々な発生時間を想定し実践的な訓練を実施している。 年1回は消防署と地区消防団、地域住民の参加を得て避難訓練を実施し、地域との協力体制を築いている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人らしさをアセスメントし、意識して尊厳を敬っている。誇りやプライバシーを損ねないような声掛けをし、快く過ごせるように努めている。	「受容の姿勢と尊厳を守ることを基本とし言動には心を添える対応をすることを理念に掲げ、管理者を中心に全職員が具体的に確認し合っている。職員は利用者の気持ちを大切にしながら、さりげないケアや言葉かけをするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を言いやすい環境作りに努めている。常に自己決定の場を作り、自立支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	嗜好について聞き、その人に合った食品を提供している。食事のペース・入浴時間、長さ、休憩時間等、その人の希望や体調、気分に合わせて対応を毎日行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの衣類を選んで頂き、整容出来るよう、鏡、ブラシ等を準備したり、化粧品の準備等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好き嫌いを把握して、楽しむことが出来るように、努めている。家事についても、1人1人、出来る事に参加して頂く事で、楽しみや自信につながる様に支援している。	一人ひとりの好みを把握し、3食手作りで利用者と職員が共に作り、同じ食卓を囲んで楽しく食べている。、笹巻きや梅干し作り・流しそうめん等季節感を取り入れ、一緒に植えた野菜を採って、彩りを添えたり、週2回は選択メニューを用意したり、外食を取り入れたり、変化を持たせながら、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分表を活用し一人一人の水分量の確認を行い、既往歴、咀嚼や嚥下の状態に合わせて食事形態の対応をしている。水分が進まない方にも、せりーで提供したり場所を変えてみたり工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを促している。介助が必要な方は職員が行っている。うがいが難しくなっている方に対して、歯磨きを使用せず、緑茶を使用したり口腔内を清潔に出来るように努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、1人1人の排泄状況を確認し、誘導時間を調整したり、自分で出来る事は行って頂く事で残存機能を活かせる支援を行っている。	一人ひとりの排泄チェック表を作成し、習慣やパターンに応じ、誘導時間を調整し可能な限りトイレで排泄するよう支援している。オムツが必要な利用者にも、日中はトイレ誘導し、トイレでの排泄を大切にしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日昼食前に、体操と歌を取り入れて体を動かす機会を作っている。又、毎日牛乳とゼリーを工夫して摂取している。オムツの方でもトイレに座って頂き、自然排便を促したり、排便状況を把握しその人に合った方法を取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の希望に合わせた時間帯や入浴の有無の確認を行っている。温泉を利用している為、体があつたまると喜ばれている。入浴剤を使用したり、変わり風呂等を行い楽しんで頂いている。	利用者の希望に合わせて、最低週3回は入浴している。毎日入浴の希望、夜間入浴の希望があり、また一方で入浴を拒む利用者もいる。一人ひとりの意向を第1にくつろいだ気分で入浴できるよう支援している。温泉であり、バラ風呂等入浴を楽しむ工夫もされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人1人その日の体調に合わせて休んでいただいたり、生活のリズムを作る事でも安心につなげている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が使用する薬の作用を理解し、薬の変更があれば状態観察を行い、主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1人1人の得意、好きな事を知り、一緒に作業したり提供する事で、喜びや楽しみを感じていただける様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の希望はご家族様と相談し、定期的にインフォーマルサービス利用し出掛ける環境を作っている。外出は気温や天候によって長時間にわたらない範囲で環境を作っている	事業所の隣の果樹畑・神社の散歩やプランターでの野菜作り、中庭での青空ランチなど、利用者が戸外で気持ちよく楽しく過ごせる機会を確保している。また季節に応じ花見や紅葉狩りなどのドライブに出かけたり、家族と共に、外食・買い物・墓参りなども楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持していないと不安な方もおり、ご家族と相談し対応している。週に一回自ら外出して、買い物に行っている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に合わせて電話を掛けたり、家族や友人へ手紙を書いたりしている。毎年、年賀状を作成し、写真や一言を添え送っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	夏は天窓から差し込む日差しを遮れるようにすだれを設置したり、温度。湿度を気にかけて換気を行っている。廊下や居室に日常の風景を撮った写真が飾られていたり、ホールには季節を取り入れた装飾をしている。	緑豊かな木々の中に木造の建物があり、窓にはすだれやグリーンカーテンで採光・風通しの良さ・温度や湿度の調整等配慮されている。居間、食堂、広々とした台所、堀コタツ付和室が一つのフロアになっており、利用者は整理整頓が行き届いたそれぞれの場所で寛いで過ごしている。行事の写真や歌の歌詞を掲示し、懐かしく心穏やかに過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間であるホールには、掘りごたつのある和室やソファ、外に向けた広い縁側等が設けてあり、気の合う方とゆっくりくつろげるスペースがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使用していた家具や馴染の私物を持って来て頂き、居心地良く過ごせるようにしている。	居室の入り口には、思い思いに選んだ暖簾がかけられ、涼しさをかもしだしている。馴染みの寝具や家具、写真や思い出の品々が持ち込まれ、きれいに整理整頓されている居室もあれば、持ち物が少ない居室もあり、その人らしく居心地よく過ごせる配慮がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活の中で歩行の妨げにならないような家具の位置の工夫、タンスの引き出しに衣類の名前を貼り自立を促している。建物内部に危険個所がないか毎月点検を行い改善に努めている。	/	/